「森銑三刈谷の会」だより 55(2026/9/19)

発行　2026/9/19（月刊・メールでの投稿歓迎）　バックナンバー 刈谷市中央図書館＞森銑三刈谷の会
例会　第3土曜日 14:00-16:00 市中央図書館　参加自由　共同代表 神谷磨利子・鈴木　哲 tetsu_s@katch.ne.jp

55:2026/7/18(土）2階展示コーナー：「村上文庫展 三河国を探る」　（参加14人）

村上文庫展「三河国を探る」の展示解説

村瀬典章

村上文庫等刈谷市中央図書館が所蔵する古典籍は令和6年3月26日に図書館ホームページで古典籍データベースの運用を開始し、書誌データ及び画像の公開をして、利用者の便を図っている。それにあわせて、さらに村上文庫の知名度をあげ興味をもってもらうために今回の展示を行った。

今回の展示では、三河国という身近なテーマを取り上げ、国名由来、三河国の人、地図、旅行案内、地理、徳川創業史、歌、古文書の8つの分野に分け、村上文庫の中から紹介をした。

三河とは現在三河地方と呼ばれる地域の旧国名である。三河、参河、参川、三川とも書かれる。現在は正式な地名としては使用されていないが、天気予報では愛知県を東と西に分けて三河地方・尾張地方といわれる。また三河地方をさらに２つに分け、東三河地方・西三河地方と使われる。このほか鉄道の駅では、三河安城をはじめ、三河三谷、三河大塚など多く使われている。

「旧事本紀」によると、三河は、古くは三河と穂の２つに分かれ、各々国造が支配していた。国名としては大化の改新によって三河国となるが、三河国という国名の初見は「日本書紀」の大化２年（646）3月の項に見られる。

国名の由来は、国内を流れる豊川・矢作・男川の３つの川から名づけられたという説、賀茂御川によるとする説、美河・御河によるものとする説、矢作川を水河といったとする説、矢作川を御河とした説など諸説ある。

「参河堤」では著者の本間長玄は3河川説に疑問を持ち、男川は逢妻男川のことではないかと考え、さらに境川ではないかとする。「諸国名義考」の著者斎藤彦麿は大川を称えて「御川（みかわ）」としたとする説を述べる。

「人国記」では三河の風俗を「気勝れて」「偏屈」などと書かれている。

旅行案内では「東海道名所図会」が著名である。寛政9年（1797）秋里蘿島によって編集された図会であり、名所・旧跡や宿場の様子、特産品などに加えて歴史や伝説などが、図入りで描かれている。「増補地名便覧」「諸国道中たひ鏡」では三河の名産として芋川饂飩が紹介されている。

地理では「参河国二葉松」が三河国を研究する上で、基本となりよく利用される書物である。特に古城趾を調査したところは、よく利用される。

徳川創業史では、「参河記」「参州事実録」「三河後風土記」「三河物語」など、徳川家康にまつわる徳川家のことが書かれている。

歌では、三河の人の歌をまとめた「尾参歌合」「参河歌集」「参河三十六人撰」「参河国名所歌合」や、三河の名所を詠んだ「元治元年千首」「三州名所和歌集」がある。

古文書は刈谷藩の家臣である浜田家から刈谷藩へ寄贈したものと考えられるが、鳳来寺や岡崎町、大樹寺などのことが書かれている。

以上のように、今回の展示では全33点の資料（うち村上文庫は30点）を展示した。村上文庫を中心に三河国を紹介した。村上文庫に少しでも興味を持っていただけたらと切に希望する。

「三河」（三川）初出は紀元前(?)

鈴木　哲

展示説明で「参河」の初出が日本書紀(720) 大化二年(646) と伺い、中央図書館「古典籍データベース」を開いた。巻第二十五孝徳天皇紀大化二年三月に「以布二尋・麻二束送参河・尾張兩國之人」が読めた。巻第三十 持統天皇紀持統六年[692] 三月に「詔免近江・美濃・尾張・参河・遠江等」があった。古事記(712)では若倭根子日子大毘毘命(開化天皇)記に「此朝廷別王者、三川之穂別之祖」とあった。開化天皇在位は伝承上、紀元前158-前98年で、記事掲出では紀元前ということになる。このことに言及した地名辞典は見られなかった。記では「三川」、紀では「參河」であることも興味深い。

身近に感じた村上文庫

神谷　明子

村上文庫の展示会の凄さをまた感じました‼これが刈谷にあることが嬉しく、誇らしいです！村瀬さんの説明が無いと素通りしてしまいそう‼

この辺りが、三河国と呼ばれていた。大化２年と年号まで記されている。天智天皇の時代をこの三河で生きていた人がいる。どんな生活だったのか。夕方、煙突から煙は上がっていたのかな⁉私の住む小垣江磯の記述があった。当時もお役所は、きちんと調べ、残されたことも凄い。日本が進んでいたことがわかる。歴史の授業が、裏打ちされた。

帰り際、村瀬先生に、文庫の蔵書印は森銑三さんが押されたですか？の問いには、多分ちがうと言われたけど、銑三さんが、手に取って調べ、目録を作られたと思うと、近くに感じました。

村瀬さんの解説でよく分かった「三河」の語源

河橋　育実

２階展示コーナーで「村上文庫展　三河国を探る」を見かけたので、中に入り見学をしましたが、全然わからなくて村瀬さんの解説が欲しいと思っていたところ銑三さんの会でしていただけました。ただ見るだけとは違い良く分かりました。

三河の語源は３本の川ではなく矢作川の御川からの説に納得です。

銑三さんも親から聞いた話として３本の川では無いとどこかに書いてあった気がします。

小さな疑問やくだらない質問にも村瀬さんはしっかり答えてくださいました。

村瀬さんありがとうございました。

森銑三の『人国記』の読み方

神谷　磨利子

『人国記』についての村瀬さんの解説をお聞きし、森銑三も三河の人の気質について同じようなことを言っていたのを思い出した。調べてみるとほかならぬ『人国記』を使って、「三河武士に就いての雑談」（初出 1929「三河の人物と其特有性」、『森銑三著作集』12 巻所収）の講演をしていた。『人国記』の著者が「その言葉賤しけれども、実義多し」「事を約して、遂げざることなし」と美点を挙げ、それが極まると「偏屈にして、我を立て、人の言を聞入れず…」と言っていることを引用している。短所ばかりにこだわって委縮するには及ばぬが、『人国記』の著者の指摘を、今日の私たちも反省するところがあって然るべきではなかろうかと、銑三が言っている点が面白い。

展示を見て感心したことあれこれ

神谷　美恵子

三河の名前の由来を知りました。交通の便の無い時代の細かい地図に感心しました。何時も思うことなのですが、昔の人の達筆な毛筆に見とれます。村上忠順一族の詩歌集に女性の名前もあって何となく嬉しくなりました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

予定

8 月は休会でした。

56：2026/9/19(土)三ツ松悟「小学唱歌を愛した森銑三」

57：2026/10/17(土)：2 階展示コーナー：村瀬典章さん解説「村上文庫展「刈谷藩校　文礼館」」

58：2026/11/21(土)：神谷磨利子「森銑三と妻文子～『ゆづり葉 森文子遺稿』(1940)を通して」〈12 月休会〉

59：2027/1/16：募集中―お申し出ください。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊